

第4回山形県津波浸水想定・被害想定検討委員会 議事概要

- 1 日 時 平成27年12月8日（火）午後2時～3時15分
- 2 場 所 県庁講堂
- 3 出席委員 今村委員長、澤委員、長谷見委員、八木委員、安久津委員、長谷川委員、桐山委員、菅原委員（代理 奥山）、白田委員、上坂委員
- 4 議 事
 - (1) 協議
 - ・津波浸水想定 of 素案について
 - (2) 報告
 - ・被害想定 of 進捗状況について

【主な意見等】

- 「沿岸部から離れた地域」という表現がよくない。イメージしやすい表現を使った方がよい。
- 津波の到達時間は大変重要な情報。引き波を含んだ津波到達時間と津波が陸上に上がってからの時間の2種類があるが、それをどう示していくか検討してほしい。
- 前回の平成24年の想定断層と今回選定したの3つの想定断層の違いについて、より詳細に、科学的知見を入れてここまで絞ってきたことを説明文として資料に入れてほしい。
- 今回選定した3つの想定断層で発生する津波による浸水域、津波の到達時間それぞれについて、地域の要望があった時にその都度公表可能となるよう資料を用意しておくべきである。
- 津波最高水位、浸水深などの表現について、図面への記載にあたっては区別しやすいような工夫をお願いしたい。
- 高齢者から子供まで、幅広い層に御理解いただけるような案を作成していただきたい。
- 建物の被害想定 of 条件は、どういうものを使って行うのか。
- F34断層の方が陸地に近いものの、庄内平野で震度6強の範囲が狭くなっている理由は何か。

- 地震動で各断層の最大の震度を取らない場合は、どのような結果になるか。
- 地震動などの計算は山形県内に限って計算したものか。
- 被害想定について、何らかの形で隣県との整合性などの確認作業が必要。
- 検討委員会が終了してからになると思うが、想定を踏まえて避難のための逃げ道の確保をどのようにしていくか、ぜひ検討していただきたい。
- 液状化危険度など詳細が分かるような資料の公表の予定はあるのか。
- 誤解を招かないように注意する意味も含めて、過去の液状化履歴などを一緒に図示することも検討していただきたい。
- 5回目の検討会をぜひ庄内地域で開催していただけるとありがたい。
- 浸水想定図には右下にイラストが入っているのでイメージがつかみ易くなった。岩礁地域のパターンも入れていただけるとありがたい。
- 液状化は住民も気にしているところ。どういう状況になるかという点について、詳しく説明していかなければならない。